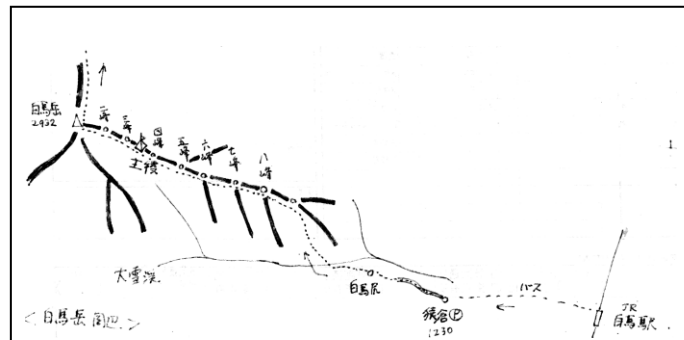
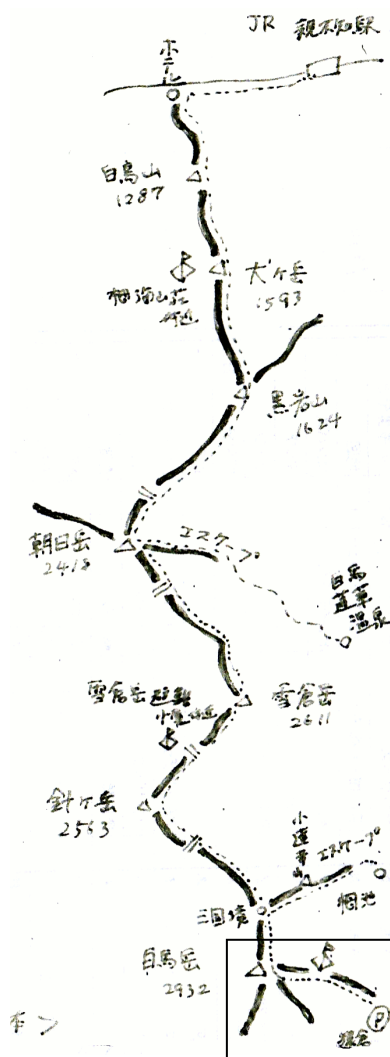


山行報告 白馬岳主稜～拇海新道 2017/5/3～6

メンバー L 岩代、岩川



Day1 5/3 晴 猿倉～白馬岳主稜～三国境

先日の大雪渓での雪崩の影響か、猿倉駐車場は7～8割の埋まり具合。半分くらいは山スキーヤー。主稜上の幕営ポイントが混み合うことを考えて早めに出発。猿倉荘の横の林道から歩き始める。



猿倉駐車場



白馬尻へ向かう 主稜の全体象

車道をショートカットした方が早いとの情報があったため、先行パーティの後を追って林道から外れる。が、しばらくして双子尾根に向かうトレースを追っていることが分かった。稼いだ高度を無駄に消費し 30 分のロス。岩川君は「体が温まりました」と殊勝なことを言うが、悪いことをした。後発の山スキーヤー達に追いつかれ、連れだって白馬尻に到着。主稜の全体像が見える。先行パーティはおよそ3つ、総勢 10 人。テン場が不安だ。先日雪崩れた大雪渓を横切り取付きへ。登攀具を装着して P8 への向けて急な雪面を登る。途中、数か所シュルントが開いており、踏み跡を崩さないように縁を回り込んで通過する。気温が高いため雪が緩く気を使う。



P8 から見る稜線



P6 の雪壁を登る

P8 からは雪壁とナイフリッジの繰り返し。特に P6、P4 の雪壁は斜度がきつく、軟雪でピッケルやステップの支持が甘いため緊張を強いられた。P6、P4、P2 の通過後のコルにはキレイに整地されたテント跡がある。すべて合わせても5張程度だろうか。椅子取りゲームに負けないように、周囲のパーティの様子は気にかけておく。P2 手前の雪壁は右の白馬沢側の細いリッジを登る。私はピッケルとアイスハンマーの二本使いだからでしたが、岩川君はピッケル1本で良く登るもんだ。怖くないのか？



P2 から下部を振り返る



最後の雪壁

P2 後のコルで休憩しつつ、核心の頂上直下の雪壁の作戦を練っていると、頂上からドローンが飛んできて、クライマーを観察している。こんな時代なんだな。蜂のような羽音が耳障りでしょうがなかったが、そのうちどこかへ行ってしまった。雪壁は約 60m で1ピッチでは足りない。コルから 10m ほど登った場所にスノーバーでビレイ点を作り、1ピッチで登りきる作戦とした。岩代リードで登る。雪壁下部は問題ないが、上部はやや傾斜が増し、軟雪にシャフトがぐらつき結構コワいため、中間でスノーバーでプロテクションを取る。キノコ雪に開いたゲートに向けて一手一足に集中して進み、頂上へ抜けた。岩川君を頂上で迎えた時は心底ホッとした。この日、主稜の稜線上で幕営の予定であったが、好条件が揃い初日で主稜が終わってしまった。白馬山荘で祝杯を上げるのも考えたが、日本海への長丁場を考えて前進することにした。この日は三国境まで進み、我々だけで雪原を独占して幕営。



白馬頂上で



三国境付近で幕営

猿倉Pにて前泊 0400 起床 → 0500 猿倉発 → 0700 白馬尻・主稜取付 → 0830 P8 → 1000 P6 → 1200 P2 → 1315 白馬山頂 → 1430 三国境 幕営

Day2 5/4 晴 三国境～千代ノ吹上

二日目も晴。今日からはピッケルをストックに持ち替えて、ひたすら日本海を目指す。鉢山道分岐を過ぎてさらに下ると鉢ヶ岳前のコル。ここからの鉢ヶ岳の東斜面のトラバースは、雪崩が起き

やすいポイントとのこと。朝一に通過できて良かった。スキヤーのトレースを追って、雪倉岳避難小屋へ。



鉢ヶ岳のトラバース



雪倉岳と避難小屋

雪倉岳山頂から稜線を下っていくと、岩場を巻くために稜線から離れて東側斜面を下り、斜面の途中から西側に方向を変えて、岩場の下をトラバースする。稜線から降りるポイントは踏み跡があり迷うことはなかったが、視界やトレースがないときはいきなり切れ落ちた岩場に出くわすことになるため注意が必要か。赤男山前のコルを通過し、今度は赤男山の西側斜面のツバメ岩の下部をトラバースして水平道分岐へ向かう。ここはルーファイ注意の事前情報があったが、ここで目印としていたツバメ岩と次に登る朝日岳を別の対象と間違えたため、水平道分岐を見逃し、白馬水平道を朝日小屋方面へ進んでしまった。GPS で確認した時には、水平道分岐から1時間ほど進んだ場所まで来ていた。ルートミスと刺すような日射で、かなり消耗していることに気づく。GPS を頼りに水平道分岐まで戻り、朝日岳の稜線に登る。終始、岩川君にステップを固めてもらいフォローすることになった。この日、アヤメ平まで進みたかったが、心身ともに疲れ果て 14:00 過ぎには行動を切り上げた。千代ノ吹上のコルの先、照葉ノ池横で幕営。



雪倉岳稜線の岩場を避けて東側斜面へ下降



赤男山 ツバメ岩のデブリ

0330 起床 → 0500 三国境発 → 0540 針ヶ岳トラバース → 0630 雪倉岳避難小屋 → 0720 雪倉岳 → 0900 赤男山 ツバメ岩デブリ通過 ……水平道分岐を見誤り白馬水平道斜面をトラバースし引き返す…… → 1100 水平道分岐 → 1300 朝日岳 → 1430 千代ノ吹上

照葉ノ池 テント泊

Day3 5/5 晴 千代ノ吹上～白鳥小屋

最終日の 5/6 から天気が崩れる予報であり、最終日の行動時間になるべく短縮すべく、起床を 2:45 まで早めヘッドランで出発。長柄山の稜線からアヤメ平に下る。スキーヤーのトレースはついてしたが、昨日のこともあり、まめに GPS をチェックする。アヤメ平から黒岩山までは幅広く開けた緩い尾根。スキーやスノボで下るときっと楽しいのだろうな。



キレイな朝焼けから3日目が始まる



黒岩山から犬ヶ岳への稜線

黒岩山からは、楯海新道に入り、東側に雪底の張り出した痩せ尾根を進む。ここからは岩川君が先行。踏み抜きや雪底の崩壊のリスクが少ない夏道寄りのラインを選んでいるのが良く分かる。私は歩きやすい雪底寄りについつい引っ張られてしまうため、彼のラインどりは勉強になる。雪壁、シュレント、藪漕ぎ、夏道を3時間繰り返し、犬ヶ岳の楯海山荘へ。計画では楯池山荘泊であるが、今朝の目論見通り、白鳥小屋まで進むことにする。ここからも炎天下を雪、藪、夏道の繰り返し。数十メートルのアップダウンの繰り返しが、心身を削っていく。菊石山から白鳥小屋までは本当に長く感じた。着いた白鳥小屋は良く整備されており快適。後続の登山者たちと日本海に沈む夕日を眺めたり、おしゃべりをするなかで、疲れた体も癒された気がする。



ルートの見極めが難しい



楯海山荘で一休憩して白鳥小屋へ向かう

0245 起床 → 0430 千代ノ吹上 照葉ノ池発 → 0620 黒岩山 → 0745 サワガニ山 →

1000 犬ヶ岳 柵海山荘 → 1325 下駒ヶ岳 → 1515 白鳥山 白鳥小屋 無人小屋泊

Day4 5/6 雨 白鳥小屋～親不知

予報通りであるが、最終日ついに雨になった。白鳥小屋から雪稜を下り、シキ割のコルへ。シキ割から坂田峠までの間は、枝に着いた赤布・印に従って夏道をたどることになるが、印のある木が倒れたり、雪で隠されたりして、ルートから外れることがたびたびあった。トレースも迷走している場合があり、GPS で確認しながら進む。坂田峠からはルート上に雪がほぼなくなり、夏山の様子と変わらなくなった。ここからはもう安心。ブナの原生林が美しい。小降りだった雨も、日本海に近づくにつれ強くなってきた。ゴールまで残された数時間は、4日間の行程からすれば微々たるものだが、とても長く感じる。早く下りて温泉に入って、乾いた服を着たい。黙々と耐え、登山口の親不知観光ホテルに到着。日本海と対面し、長旅が終わった。タクシーに乗車拒否されてもおかしくないくらいずぶ濡れだったのだが、白鳥小屋で会った単独行のお兄さんが、車で糸魚川まで送り届けてくれたため、本当に助かった。電車で白馬まで戻り、車を回収。待ちに待った温泉に入り、帰路に就いた。



尻高山 ブナの原生林



日本海へ

0320 起床 → 0430 白鳥小屋発 → 0640 坂田峠 → 0730 尻高山 → 0930 入道山 → 1015 親不知観光ホテル

【所感】

日本を代表する雪稜と、縦走路の2ルートを堪能でき、思い出深い山行になりました。たまたま私がリーダーをしましたが、岩川君にはいろんな場面で助けられることが多く、私は技術も体力もレベルを上げていかねばならないなと感じます。

【装備コメント】

- ・ 冬用のアウターは不要。カッパで十分。
- ・ 軽量化のため3シーズンシュラフ+カバーに、象足とダウンジャケットを持参。白馬の夜はやや寒いが、以降の泊りは、適温かやや暑いくらい。
- ・ 消費したガスは 1.5 缶。5 缶も持って行ってしまった。。。 (岩代 記)